

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編年沿革略 : 附龍南会の推移
Author(s)	五高創立七十周年記念会; 高森, 良人
Citation	龍南への郷愁: 166-189
Issue date	1957-10-10
Type	Book
URL	http://hdl.handle.net/2298/10846
Right	

附 録

一、編年沿革略

(調査ノ必要ヲ認メザルモノ、又ハ不可能ノモノハ、年月ノ下必ズシモ日ヲ記サズ。◎ハ習學寮關係、□ハ龍南會關係ヲ示ス。)

高等中學校官制

明治十九年四月十二日

中學校令九條ヲ公布シ、翌十三日、高等中學校官制ヲ定ム。

高等中學校設置

明治十九年十一月三十日

高等中學校ノ設置區域ヲ定メ、長崎・福岡・大分・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島ノ七縣ヲ第五地方ト定メラル。

第五區中學校位續決定

明治二十年四月十五日

第五區高等中學校ノ位置ヲ、熊本ト定メラル。

第五高等中學校成立

明治二十年五月三十日

第五高等中學校ト稱セラル。

野村校長任命

明治二十年六月四日

第一高等中學校校長兼高等師範學校幹事野村彦四郎本校校長ニ任ゼラル。

假事務所設置

明治二十年七月十三日

本校假事務所ヲ、熊本區櫻井町十七番地内國通運會社ニ設ク。

醫學部設置

明治二十年八月二十七日

醫學部ヲ、長崎ニ設置セラル。

假事務所古城移轉

明治二十年十月一日

本校假事務所ヲ、熊本區古城町熊本鎮臺所屬舊熊本警察署跡ニ移轉ス。

定員決定
入試開始

明治二十年十月十八日

本校ノ人員ヲ、本科・豫科六百九十人、醫科四百人ト定メラレ、本日ヨリ本校部入學試験ヲ施行ス。

敷地決定

明治二十年十月二十六日(カ)

本校ノ敷地ヲ飽田郡黒髮村(現熊本市黒髮町)ニ定ム。

本校入學式舉行

明治二十年十一月十四日

豫科三級二十四名、假入學五十七名、合計八十一名ニ對シテ、入學式ヲ舉行シ、引續キ授業ヲ始ム。

御眞影下賜

明治二十年十二月

天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル。

醫學部長任命

明治二十一年三月二十三日

長崎縣醫學學校長吉田健康、本校敎諭醫學部長ヲ命ゼラル。

同月、商議委員規定ヲ定ム。

醫學部開部式舉行

明治二十一年四月二日

醫學部ヲ長崎縣西彼杵郡下長崎村稻荷ヶ嶽長崎醫學學校跡ニ開キ、九州地方舊各醫學校生徒ニシテ、入學ヲ許可シタルモノ三百六十九人ヲ、同學部ニ招集シ、假ニ開部式ヲ舉行シ、同月十日、授業ヲ始ム。

暫定授業料月額

明治二十一年四月十九日

高等中學ノ授業料ハ本科貳拾圓、豫科拾五圓ヲ、七月八月ヲ除キ、毎月分納スベキ規定ナレドモ、本校ハ、諸機械未ダ完備セザルヲ以テ、本學年限リ、豫科生徒ノ授業料ヲ、七月八月ヲ除キ、一箇月金八拾錢宛徴收スルコトヲ得シメラル。

一部二部三部ノ規程

明治二十一年七月六日

文部省令第四號ヲ以テ、本科ノ學科課程ヲ改正シテ、高等中學校ノ學科ハ、一部・二部・三部ニ改メ、各生徒ヲシテ其

ノヲ修メシムルコトトス。

校則制定 明治二十一年十二月二十八日

本校規則ヲ制定ス。

特待生規定 明治二十二年七月三十一日

特待生規程成ル。

明治二十二年七月十三日

本校黒髪村移轉 舊飽田郡黒髪村本校本館建築竣工ニ付、移轉校務取扱ヲ開始シ、同月十五日、假校舍ヲ返却ス。

野村校長 明治二十二年九月三日

非職 學校長野村彦四郎、非職ヲ命ゼラレ、西邨貞、學校長事務取扱ヲ命ゼラル。

補充生ノ授業料 明治二十二年十月二日

補充生ノ授業料ハ、本學年限リ、一月一圓ヲ徴收スルコトヲ得シメラル。

寄宿舎ニ寮竣工 明治二十二年十一月

休學規定 明治二十二年十二月二十七日

休學規定ヲ制定ス。

平山校長任命 明治二十三年二月十四日

教諭兼頭西邨貞、文部省參事官ニ轉任シ、第三高等中學校幹事平山太郎ハ學校長ニ、高等師範學校教諭兼幹事櫻井房記ハ教諭兼教頭ニ、文部省視學官樺桑一郎ハ幹事ニ任ゼラル。

藥學科附 明治二十三年六月

設 醫學部ニ藥學科ヲ附設シ、人員ヲ百人ト定メラル。仍リテ當校ノ定員ハ、合計千百九十人トナル。

明治二十三年十月十日

開校式舉行 文部省專門學務局長濱尾新、來リテ式ニ臨ム。

同月、本校ノ官制ヲ改正シ、職員ハ、學校長・教授・助教・幹事・舍監・書記トシ、各定員ヲ定メラル。從前ノ教諭ハ教授ニ、助教論ハ助教ニ任ゼラレ、又、元醫學部長ハ、醫學部主事ヲ命ゼラル。

明治二十四年一月十六日

勅語謄本下付 勅語謄本ヲ下附セラル。

明治二十四年一月二十二日

御宸署ノ勅語下賜 平山校長、疊ニ下賜セラレタル教育ニ關スル御宸署ノ勅語ヲ、奉持シテ歸着ス。

官舎竣工 明治二十四年五月六日

官舎竣工ニ付、芳川文部大臣ヨリ學校宛、該官舎へ居住スベキ旨命令アリ。

明治二十四年六月八日

平山校長卒去 學校長平山太郎卒去ス。教授櫻井房記、學校長心得ヲ命ゼラル。同月、幹事ヲ廢シ、舍監ヲ置カル。

明治二十四年八月十三日

嘉納校長任命 文部省參事官嘉納治五郎、學校長兼文部省參事官ニ任ゼラル。

同月、本校ノ官制ヲ改メ、職員ハ、學校長・教授・助教・書記トシ、舍監ヲ置クノ必要アルトキハ、教官ヨリ兼任セシムルコトヲ定メラル。

明治二十四年九月

醫學部新築落成 醫學部校舍新築成ルヲ以テ、此ニ移轉シ、在來ノ醫學部ヲ以テ、分教場ト定メ、四年生ノ教授所トナス。

龍南會發
會式舉行

明治二十四年十一月三日
龍南會發會式ヲ舉行ス。

醫學部開
校式

明治二十五年三月七日
醫學部、開校式ヲ行フ。文部次官辻新次、來リ臨ム。

本校第一
回卒業式

明治二十五年七月十日
本校第一回卒業式ヲ舉行ス。

授業料規
程更正

明治二十五年九月

本校授業料規程ヲ更正シテ、全額拾五圓ヲ三學期ニ分納セシムルコトトシ、之ニ醫學部進級及卒業試問規程ヲ加ヘ、從
來ノ醫學部規則ヲ廢シテ、本校及醫學部ノ諸規程ヲ統一ス。

本年ヨリ、豫科補充第二級生ノ募集ヲ止ム。

補充二級
募集停止
記念日制
定

明治二十五年十月

自今毎年、本校ハ十月十日、醫學部ハ四月十日ヲ以テ、記念日ト定ム。

有栖川宮
殿下台臨

明治二十五年十一月二十一日
有栖川宮威仁親王殿下、台臨アラセラル。

中川校長
任命

明治二十六年一月二十五日

學校長嘉納治五郎、文部省參事官ニ轉任シ、第四高等中學校校長中川元、本校校長ニ任ゼラル。

北白川宮
殿下台臨

明治二十六年四月二十六日

北白川宮能久親王殿下、台臨アラセラル。

農科新設

明治二十六年八月二十四日

勅令第八十七號ヲ以テ、本校ノ職員ハ、校長一人、教授二十五人、助教授十五人、書記十人ト定メラル。

同月本科第二學科中ヘ、農科志望者ニ課スル學科課程ヲ加ヘ、本學年ヨリ施行ス。

補充生入
學停止

明治二十六年九月

本年ヨリ、豫科補充生ノ入學ヲ停メ、豫科第三級以上ノ生徒ヲ募集スルコトトセリ。

職員制服

明治二十六年十一月

文部省ノ允裁ヲ經テ、本校職員ノ服制ヲ定ム。

此年、雨天體操場ノ板敷工事ヲ竣ヘ、講堂ノ觀ヲ呈スルニ至レリ。

大婚奉祝

明治二十七年三月九日

明治天皇大婚二十五年奉祝式竝ニ提灯行列ヲ舉行ス。

受験料徴
收開始

明治二十七年四月

本校本科・豫科ノ入學試験料金壹圓ヲ徴收スルコトニ定メラル。

第五高等
學校ト改
稱

明治二十七年九月

六月二十三日ノ勅令第七十五號ヲ以テ、本月十一日ヨリ、第五高等學校ト改稱セラレ、文部省令第十五號ヲ以テ、本校
ニハ、醫學部及大學豫科ヲ設置シテ、第三學科ヲ加ヘラル。

明治二十八年五月

規則中ニ、醫學部卒業生ハ得業士ト稱スルコトヲ得ルノ一條ヲ追加ス。

擊劍・柔道ヲ、體操副科ト定ム。

舊豫科三
級廢止

明治二十八年七月

舊豫科三級ヲ廢セラル。

雜誌部、演說部、
擊劍部、柔道部、
弓術部、戶外遊戲部

コノ年、東京ニ於テ
龍南會支部成立。雜
誌部委員ヲ減ジテ、
總務委員ヲ獨立セシ
ム。

龍南への郷愁

一七二

設置區域
撤廢

明治二十九年六月

明治三十年四月以降、大學豫科へ生徒ヲ入學セシムルニハ、高等中學校設置區域ニ依ラザル儀ト心得ベキ旨訓令セラル。

舊豫科全
廢

明治二十九年七月

舊豫科ヲ全廢セラル。

明治二十九年九月

擊劍・柔道ヲ正科ニ準ゼシム。

明治二十九年十二月

動物及植物學教室附屬家一棟ヲ新築ス。

工學部設
置

明治三十年四月十七日

文部省令第三號ヲ以テ、本校ニ、工學部ヲ設置シ、同年七月十七日、教授櫻井房記工學部主事ヲ命ゼラル。

明治三十年九月

醫學部主事吉田健康、卒去シ、教授大谷周庵、醫學部主事ヲ命ゼラル。

事務所・工學部生徒控所、各一棟ヲ新築ス。

明治三十年十一月四日

小松宮彰仁親王殿下、御臨校アラセラル。

明治三十一年二月

大谷周庵、醫學部主事ヲ免ゼラレ、教授村上安藏、同主事ヲ命ゼラル。

明治三十一年八月

コノ年四月、端艇部ヲ加へ、戶外遊戲部ヲ、運動部ト改ム。

工學部理化學實驗室二棟ヲ新築ス。

明治三十一年九月

工學部教室・實驗工場、各一棟ヲ新築ス。

明治三十二年八月

教授村上安藏、醫學部主事ヲ免ゼラレ、教授田代正、同主事ヲ命ゼラル。

明治三十三年三月

◎寄宿舎新寮・同附屬病室・物理學教室附屬家、各一棟ヲ新築ス。

明治三十三年四月

本校規則中、大學豫科第一部學科課程表ヲ改正シテ、法科ハ英語ヲ以テ修ムル者ヲ甲種トシ、獨語ヲ以テ修ムル者ヲ乙種トス。

學校長中川元、第三高等學校校長ニ轉ジ、教授櫻井房記、本校校長ニ任ゼラル。

明治三十三年五月十四日

皇太子殿下（大正天皇）御成婚奉祝式竝ニ運動會ヲ舉行ス。

明治三十三年八月

大學豫科ノ學科規定ヲ改正セラル。

明治三十三年十二月

工學部實驗工場附屬家一棟ヲ新築ス。

明治三十四年三月二十日

教授神谷豐太郎、工學部主事ヲ命ゼラル。

編年沿革略

一七三

コノ年、端艇部擴張トシテ、費トシテ、山内・細川元侯爵家ヨリ、金三百圓ノ寄附アリ。

明治三十四年四月一日

醫學部分
本校醫學部ヲ分立シテ、長崎醫學專門學校ト改稱セラレ、尋テ本校職員ノ定員ヲ改正セラル。

明治三十四年四月

大學豫科入學志願者ハ、中學卒業後經過ノ年數ニ制限ヲ置カザルコトニ定メラル。

明治三十四年五月二日

第一皇孫殿下（今上陛下）御降誕ニ付、花岡山ニ於テ、奉祝遙拜ヲナス。

今上陛下
御降誕奉
祝

明治三十四年九月

宣誓式舉
行

宣誓式ヲ舉行シ、禁酒ヲ勵行ス。

明治三十五年四月

入試規定
各校配當

文部省令第十號ヲ以テ、明治三十三年文部省令第十三號大學豫科學科規程中、第三部ノ藥學科ヲ、第二部ノ學科中ニ移
サル。

文部省告示第八十二號ヲ以テ、高等學校大學豫科入學試驗規程ヲ定ム。隨ツテ、入學試験ハ、本年ヨリ文部省ニ於テ、
各高等學校ヲ通ジテ之ヲ行ヒ、各高等學校ニ配當スルコトナレリ。

小松宮彰
仁親王殿
下御差遣

明治三十五年十一月十三日

小松宮彰仁親王殿下ヲ本校ヘ差遣ハサル。

同月、商議委員規定廢止セラル。

寮内電燈

明治三十六年五月

◎寄宿舎内ニ於テ、始メテ電燈ヲ點ズ。

明治三十六年九月九日

教授神谷豐太郎、工學部主事ヲ免ゼラル。

生徒監

明治三十六年十二月

◎勅令第二百三十號ヲ以テ、舎監ヲ生徒監ト改稱セラル。

授業料増
額

明治三十八年二月

本校規則中、大學豫科授業料、一學年金貳拾五圓ヲ參拾圓ニ増額シ、寄宿料、一學年金七圓ヲ徴收ノ條ヲ追加ス。

明治三十八年 月

生徒集會室（娛樂室）一棟ヲ、體操場（武夫原）ノ北側、雨天體操場（濟美館）ノ西方ニ設ク。

明治三十九年三月二十九日

本校工學部ヲ分立シテ、熊本高等工業學校ト改稱シ、尋テ本校職員ノ定員改正セラル。

明治三十九年六月

元工學部校舎ヲ、熊本高等工業學校ニ引渡ス。

評議員會規程竝ニ教授會規程ヲ定ム。

明治四十年一月十六日

學校長櫻井房記、依願本官ヲ免ゼラレ、山口高等商業學校教授松浦寅三郎、本校校長兼教授ニ任ゼラル。

明治四十年三月

擔任教官規程ヲ定ム。

明治四十年六月

教授ノ次ニ生徒監ヲ加ヘ、教官ハ生徒ノ教育ヲ掌リ、生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ掌ルコトナル。

本校職員定員中、教授二十五人ヲ二十七人ニ、助教授六人ヲ七人ニ改正セラレ、教授ノ次ニ生徒監ヲ加ヘ奏任教官ノ中

宣誓停止

ヨリ、文部大臣之ヲ補シ、教官ハ生徒ノ教育ヲ掌リ、生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ掌ルコトトナル。

明治四十年八月

本校規則第四章中、新入學生徒ノ宣誓ニ係ル條ヲ削除ス。

文科（一部乙）新設

明治四十年九月

本學年ヨリ、第一部乙種（文科）一組（生徒四十五人）増加セラル。

明治四十年十月

新教室一棟ヲ新築ス。

入試校別施行

明治四十一年三月

文部省告示第七十八號ヲ以テ、高等學校大學豫科入學者選抜試験規程廢止セラル。随ツテ、選抜試験ハ、本年ヨリ各高等學校別ニ之ヲ行フコトトナレリ。

本學職員定員中、教授二十七人ヲ三十人ニ改正セラル。

詔書謄本下付

明治四十一年十一月

文部省ヨリ、十月三十日下シ賜ヒタル詔書ノ謄本ヲ下付セラル。

明治四十一年十二月

◎發動機室・寄宿舎集會室、各一棟ヲ新築ス。

明治四十二年四月

本校職員定員中、教授三十人ヲ三十三人ニ、助教授七人ヲ八人ニ改正セラル。

明治四十二年八月

銃器庫一棟ヲ新築ス。

コノ年、野球部及ビ庭球部加ハル。

コノ年、運動部廢セラレ、水泳部加ハル。

工科（一部甲）新設

明治四十二年九月

本學年ヨリ、第二部甲種（工科）一組（生徒四十二人）ヲ増加セラル。

新教室ヲ二階建ニ改築及増築ス。

明治四十三年三月

勅令第六十七號ヲ以テ、本校職員定員中、助教授八人ヲ三人ニ改正セラル。

明治四十三年五月

文部省令第十一號ヲ以テ、高等學校大學豫科入學者選抜試験無試験檢定規定ヲ改ム。

明治四十三年九月

生徒控所一棟ヲ移築ス。

明治四十三年十月

圖書教室一棟ヲ新築ス。

明治四十四年三月

本校職員定員中、教授三十三人ヲ三十五人ニ、助教授三人ヲ四人ニ改正セラル。

明治四十四年五月

本校規則中、授業料、一學年金參拾圓ヲ參拾五圓ニ増額シ、其分納額ヲ改正ス。

明治四十四年九月

化學實驗室一棟ヲ新築ス。

明治四十五年五月

本校職員定員中、教授三十五人ヲ三十六人ニ改正セラル。

御大葬遙
拜
大正元年九月十三日

明治天皇御大葬ニ付、遙拜式ヲ舉行ス。

御陵參拜
大正元年十月十二日

往復一週間ノ豫定ヲ以テ、桃山御陵參拜修學旅行ノ途ニ就ク。

慰靈祭舉行
大正二年二月

◎寄宿舎内ニ、チフス患者續出シ、四月十四日、死亡者ノ爲ニ、校庭ニ於テ慰靈祭ヲ行フ。

大正二年六月

本校規則中、入學料金壹圓ヲ參圓ニ改ム。勅令第百八十三號ヲ以テ、本校職員定員中、教授三十六人ヲ三十五人ニ改正セラル。

大正二年八月

本校規則第三章休業日中、神嘗祭ノ次ニ、天長節祝日ノ一項ヲ追加ス。

大正二年十月二十三日

吉岡校長
任命

學校長兼教授松浦寅三郎、依願本官兼官ヲ免ゼラレ、文部省督學官吉岡郷甫、本校校長兼教授ニ任セラル。

學寮閉鎖
大正二年十一月

◎寄宿内ニバラチフス、赤痢相次デ發生シ、(十二月)遂ニ學寮ヲ解散閉鎖ス。

本校規則第五章中ニ、明治三十四年ヨリ同三十八年ニ至ル間ニ於ケル本校元工學部卒業者ハ、第五高等學校工學士ト稱スルコトヲ得ルノ一條ヲ追加ス。

大正三年六月

勅令第百二十四號ヲ以テ、文部省直轄學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ公布ス。

コノ年、鑿劍部ヲ、
劍道部ト改メ、九月、
山岳部加ハル。

監督教官
規程

大正三年九月

監督教官規程ヲ改正ス。

大正四年九月

◎寄宿舎北寮ヲ移築及改築ス。

御眞影下
賜

大正四年十月二十七日

御下賜アラセラレタル天皇陛下ノ御眞影奉戴式ヲ舉行ス。

大正四年十月

生徒集會室一棟ヲ、校域ノ北西部、裏門ノ近クニ移築ス。

大正四年十一月十日

御即位禮
奉祝式舉
行

大正天皇御即位奉祝式ヲ舉行ス。(提灯行列ハ十六日)、同月三十日ヨリ一週間ノ豫定ヲ以テ、職員生徒一同御即位式場跡

御跡拜觀

大正四年十二月二十七日

御沙汰書
謄本下付

同十日、教育ニ關スル御沙汰書ノ謄本ヲ下付セラル。

大正四年十二月

本校職員定員中、教授三十五人ヲ三十七人ニ改正セラル。

大正五年六月

御眞影奉
安所竣成

御眞影奉安所竣成ス。(職員生徒寄附)

大正五年八月

◎寄宿舎南寮ヲ移築及改築ス。

龍南への郷愁

一八〇

大正五年十月二十一日

皇后陛下
皇太子殿下
御眞影

皇后陛下皇太子殿下ノ御眞影ヲ下賜セラル。

大正五年十一月三日

立太子禮
奉祝式舉
行

立太子禮奉祝式竝ニ提灯行列ヲ舉行ス。

大正六年三月

狹窄射擊
教授開始

書庫及體操教官室、各一棟ヲ新築ス。

校内ニ狹窄射擊場ヲ設ケ、狹窄射擊場ノ教授ヲ始ム。

大正六年四月

入試各校
共通施行

文部省令第四號ヲ以テ、高等學校大學豫科入學者選拔試験規程ヲ改正ス。隨ツテ、選拔試験ハ、本年ヨリ各高等學校ヲ通ジテ之ヲ行フコトナレリ。

大正六年五月

實包射擊
教授開始

陸軍ノ射擊場ヲ借用シテ、實包射擊ノ教授ヲ始ム。

大正七年十一月

事務所ヲ改築ス。

大正七年十二月五日

高等學校
令改正

勅令第三百八十九號ヲ以テ、高等學校令ヲ改正シ、大正八年四月一日ヨリ施行セラル。

大正八年三月二十九日

文部省令第八號ヲ以テ、高等學校規程ヲ定メ、高等學校大學豫科入學者無試験檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試験規程ヲ廢止ス。

大正八年四月

選拔試験ハ、本年ヨリ各高等學校別ニ、同時ニ之ヲ行フコトナレリ。

大正九年三月三十一日

皇太子殿
下台臨

皇太子殿下、台臨アラセラル。

大正九年八月

勅令第三百三十九號ヲ以テ、本校職員定員中、教授三十七人ヲ三十九人ニ改正セラル。

授業料増
額

大正九年九月

本校學則中、授業料、一學年金參拾五圓ヲ四拾圓ニ増額シ、其ノ分納額ヲ改正ス。

大正九年十月十日

三十年記
念式舉行

開校第三十週年記念式ヲ舉行ス。文部大臣代理關屋書記官來リ臨ム。

大正九年十月三十日

教育勅語
記念式舉
行

教育勅語煥發第三十週年記念式ヲ舉行ス。

大正九年十一月一日

體操場ニ於テ、明治神宮鎮座祭遙拜式ヲ執行ス。

大正九年十一月

植物及動物礦物及地質學教室一棟ヲ新築シ、元ノ動物及植物學教室一部ヲ取毀シ、地質及礦物學教室一棟ヲ物置ニ改造ス。

高等學校高等科ニ、學力檢定規程ヲ定メ、大學豫科學力檢定規程ヲ廢ス。

大正十年四月

編年沿革略

一八一

龍南會記念各種ノ行事並ニ施設ノ費用ハ、同窓生ノ寄附ニヨル。

體操場（武夫原）ニ於テ、新設グラウンド開大會ヲ舉行ス。

本年度ヨリ、告別式ヲ三月ニ、入學式ヲ四月ニ、夫々變更セラル。

告別式並
入學式日
變更

大正十年五月

本校職員定員中、教授三十九人ヲ四十人ニ、助教授四人ヲ五人ニ改正セラル。

大正十年六月一日

黒髮村熊
本市に併
合セラル

本校ノ敷地、熊本市ノ一部トナル。

大正十年十一月九日

溝淵校長
任命

學校長兼教授吉岡郷甫、浦和高等學校長ニ轉任シ、第四高等學校長溝淵進馬、本校校長ニ任ゼラル。

大正十年十二月

物理及化學實驗室、各一棟ヲ新築ス。

授業料増
額

大正十一年四月

本校學則中、授業料、一學年金四拾圓ヲ五拾圓ニ増額シ、其ノ分納額ヲ改正ス。

大正十一年十月

學制頒布五十年記念式ヲ舉行ス。

大正十二年四月

◎本館教室ト寄宿舎トノ渡廊下及寄宿舎附屬病室ノ改築ヲナス。

大正十三年七月

學年教員會規程並ニ學科目教員會規程ヲ定ム。

授業料増

大正十四年三月

コノ年、陸上競技部
加ハル。

コノ年、蹴球部加ハ
ル。

額

道場新築

本校學則中、授業料、一學年金五拾圓ヲ六十五圓ニ増額シ、其ノ分納額ヲ改正ス。

柔道劍道道場新築成ル。

大正十五年四月

第十三臨時教員養成所ヲ本校ニ設ケ、數學科ヲ置ク。

配屬將校

大正十四年四月十一日

陸軍現役將校配屬令公布セラル。

大正十五年十月二十二日

長慶天皇ヲ皇統譜第九十八代ニ奉列御申告ニ付、臨時休業ヲ爲ス

昭和元年十二月二十五日

大正天皇崩御ニ付、奉悼式ヲ舉行ス。

昭和二年二月一日

大正天皇御大葬ニ付、遙拜式ヲ舉行ス。

昭和三年四月

第十三臨時教員養成所ニ、國語漢文科ヲ増置ス。

昭和三年八月

熊本市、本校構内ニ水泳場ヲ築造シ、本校ニ寄附ス。

プール築
造
兩陛下御
眞影下賜

昭和三年十月九日

天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル。

生徒主事

昭和三年十月三十日

編年沿革略

コノ年、中野二郎君
ヨリ、令弟故中野六
郎君追善ノタメ、在
學記念資金トシテ、金
二千圓ノ寄附アリ。

コノ年、長野忠次氏
ヨリ、長男長野忠俊
君病氣退學ノタメ、
在學記念トシテ、金
一千圓ノ寄附アリ。

コノ年、ラグビー部
ヲ編入シ、翌年、ソ
ノ獨立ヲ認ム。

今上陛下御即位禮
奉祝式舉行

前日、勅令第二百五十六號ヲ以テ設置セラレタル生徒主事同主事補ノ任命アリ。
昭和三年十一月十日

今上陛下御即位ノ大禮ヲ擧ゲサセラルルニ付、奉祝式竝ニ提灯行列ヲ擧行ス。

昭和三年十二月

教育ニ關スル御沙汰書ヲ御下賜アラセラル。

昭和四年三月

本校學則中、授業料、一學年金六拾五圓ヲ八拾圓ニ増額シ、其ノ分納額ヲ改正ス。

昭和四年四月

規定ヲ設ケテ、本年度新入生ヨリ、第二保證人ヲ教授中ニ就イテ依頼セシム。

昭和四年五月

御大禮記念館竣成ス。(職員生徒寄附)

昭和四年八月

圖書教室竝ニ新教室ノ二棟ヲ東方ニ移轉シ、其ノ跡ニ講堂ヲ新築、昭和五年三月末日ヲ以テ竣成ス。

昭和四年十月二日

神宮式年遷宮祭ニ付、授業ヲ休止シ、午後六時ヨリ、雨天體操場ニ於テ遙拜式ヲ擧行ス。

昭和五年三月

◎寄宿舎ノ第四寮ノ内部ヲ改造シテ、室數ヲ増加ス。

昭和五年十一月

銃器庫増築工事ニ着手、同年十二月落成ス。

コノ年、弓術部ヲ、
弓道部ト改ム。

昭和六年一月十日

學校長溝淵進馬、第三高等學校長ニ轉任シ、第四學校長武藤虎太、本校校長ニ任命セララル。

昭和六年二月 日

前ニ御貸下ゲノ天皇陛下皇后陛下御眞影ヲ奉還シ、新ニ下賜セラル。

昭和六年 月

校旗ヲ制定ス。夙ニ明治二十七年頃ニモ、制定セラレタリト聞ケドモ、年月竝ニ使用期間ヲ審カニセズ。

昭和六年十一月十五日

天皇陛下、本校ニ行幸アラセラル。

昭和七年三月

第十三臨時教員養成所廢止セララル。

昭和七年三月三十一日

學校長武藤虎太、依願本官ヲ免ゼラレ、廣島高等學校長十時彌、本校校長ニ任ゼラル。

昭和七年五月

◎學寮會ノ寄附ニ係ル本校寄宿舎構内ノ仰光館(行幸記念)新築成ル。

昭和七年十二月

勅令第三百九十五號ヲ以テ、本校職員定員中、助教授五人ヲ四人ニ改正シ、助手一人ヲ減員セララル。

昭和八年三月

特待生規程ヲ廢ス。

特待生規
程廢止

昭和十年四月十六日

編年沿革略

御眞影奉
安所奉遷

梨本元帥宮殿下帶山練兵場ニ於テ、御親閲ヲ賜フ。

昭和十一年四月二十七日

客月ヨリ工事中ノ御眞影奉安所改築竣工ニ付、熊本高等工業學校奉安殿ニ安置セル御聖影ヲ奉遷ス。

昭和十一年五月

◎寄宿舎食堂一部改築成ル。

昭和十一年九月

◎寄宿舎食堂一部ノ移築ニヨリテ、第二生徒控所成ル。

昭和十一年十一月

◎寄宿舎食堂全ク成ル。

昭和十二年四月

◎在寮生集會所成ル、知命堂ト稱ス。

生徒集會所改築成ル、終諧堂ト稱ス。

昭和十二年九月

開校五十年記念會館新築竣功ス。

昭和十二年十月十日

五十年記
念式舉行

開校五十年記念式典ヲ舉行ス。文部大臣代理文部省専門學務局長男爵山川健來リ臨ム。

昭和十二年十月十七日

東光原ニ於テ、皇太神宮遙拜式ヲ行ヒ、續イテ運動會・斷郊競走、夜ハ映畫會ヲ催ス。

昭和十三年八月三十日ヨリ五日間

コノ年、ホッケー部
公認セラレ、翌年、
ソノ獨立ヲ認ム。

校長更迭

昭和十五年一月十日

學校長十時彌、依願本官ヲ免ゼラレ、廣島高等學校長添野信、本校校長ニ任ゼラル。

昭和十五年二月十一日

阿蘇道場
贈呈式

紀元節ノ式後、阿蘇道場ノ贈呈式ヲ行フ。(開場式ハ、九月二十二日ニ行ハル。)

昭和十五年十月十九日

武夫原ニ於テ、孝明天皇平安神宮鎮座祭ノ遙拜式ヲ行フ。

昭和十五年十一月十二日

龍南報告
團結成

龍南會ヲ再組織シテ、龍南學徒報國團ヲ結成ス。

昭和十六年十二月九日

宣戰詔書
奉讀式

前日ノ對米英宣戰布告ニ關スル詔書ノ奉讀式ヲ行フ。

昭和十七年三月三十日

課程半年
短縮

文部省令第三十一號ニ依ル臨時措置トシテ、第三學年ハ、九月三十日マデトナル。

二年課程

昭和十八年一月二十日

高等學校令ノ改定ニ依リ、二年ノ課程トナル。

新寮竣功

昭和十九年五月一日

コノ年、同窓有志ノ
獻金ニヨリテ建設シ
タル阿蘇道場ヲ寄附
ス。

上記ノ組織及ビ内容
ハ既記

◎生徒寄宿舎第四寮ノ増築竣功ス。

校長更迭

昭和十九年九月一日

學校長添野信、依願本官ヲ免ゼラレ、新潟醫科大學長本島一郎、本校校長ニ任ゼラル。

終戦詔書

昭和二十年八月十五日

終戦ノ詔書下ル。生徒ヲ訓諭シ、三日間臨時休業ス。

御眞影奉還

昭和二十一年一月十三日

御眞影奉還ノタメ、教授淺井東一等上京ス。

龍南會復元

昭和二十一年三月一日

龍南學徒報國團ヲ解消シ、元ノ龍南會ニ復ス。

三年課程復元

昭和二十一年五月四日

文部省令第十八號ヲ以テ、高等學校ハ、本年四月一日ヨリ、三年課程ニ復ス。

昭和二十二年一月三十一日

生活課ヲ解消シ、生徒課並ニ厚生課ヲ設ク。

教育基本法公布

昭和二十二年三月二十九日

法律第二十五號ヲ以テ、教育基本法ヲ公布シ、即日施行セラル。

校長更迭

昭和二十三年五月三十一日

學校長本島一郎、依願本官ヲ免ゼラレ、竹内良三郎、本校校長ニ任ゼラル。

校長更迭

昭和二十四年五月三十一日

學校長竹内良三郎、信州大學文理學部長ニ轉ジ、教授河瀬嘉一、熊本大學法文學部長事務取扱兼本校校長ニ補セラル。

本校課程終了式

昭和二十五年三月二十五日

第五高等學校課程終了式ヲ行フ。

昭和二十五年三月三十一日

河瀬嘉一、本官並ニ兼官ヲ免ゼラレ、熊本大學教授ニ任ゼラル。

龍南會ヲ解消ス。

再ビ龍南會ニ復ス。